

パラグアイの同級生から学ぶ「大切なもの」

所属	大同大学大同高等学校	実践者	市江 文奈
対象	高校2年生	時間数	5時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイと肯定的に出会い、日本とのつながりを知り、異文化理解の楽しさに気づく。 ・パラグアイの同級生の生活や考え方から、自分の環境を振り返り、「当たり前」の大切さに気づく。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【パラグアイってどんな国？パラグアイと出会う】 ① 「南米」「パラグアイ」と聞いてのイメージを書き出し、ポップコーン方式にて発表する。 ② パワーポイントの説明を聞いて、パラグアイの概要を知る。 ③ 説明を聞いてからのパラグアイの印象を書き出し、ペアでシェアする。	パワーポイント ワークシート、ペン
	2	【パラグアイでのホームステイ体験】 ① テレレ文化の紹介を聞く。スペイン語とグアラニー語の練習をする。 ② テレレを体験する。 グループごとに、パラグアイチームと日本チームに分かれる。 パラグアイチームは日本チームをテレレしながらもてなし、日本チームは限られた言葉の中でテレレの体験をし、そのルールを見つける。 ③ 感想をグループごとに書きたし、発表しあう。	マテ茶、テレレ用のポットとコップ、ストロー、チパのお菓子 写真 ワークシート、ペン
	3	【世界の裏側の高校生の生活】 ① 自分の一日の生活を書き出す。 ② Ivan 君の一日の生活を見て、同じ／違うところを対比表に書き出す。 ③ ギャラリー方式でシェアする。 ④ 対比表をもとに、日本とパラグアイの良いところ及び課題を書き出す。	模造紙 写真 ワークシート ペン
	4	【『大切なもの』って何だろう】 ① 前回の復習 ② 自分の「大切なもの」とその理由を書き出し、ペアでシェアする。 ③ パラグアイの同級生は「大切なもの」を何と答えたか、グループごとで推測する。 ④ 答えを聞き、感想をシートに記入する。 ⑤ ギャラリー方式でシェアをした後、全体で共有する。	アンケート用紙 写真 ワークシート、ペン
	5	【協力隊の方々の活躍を知ろう】 ① パラグアイで活躍されている青年海外協力隊の紹介と映像を見る。 ② 今までの学びの振り返り ③ 感想の記入、ペアでシェアする。	映像 ワークシート、ペン
成果	生徒はパラグアイという未知の国と肯定的に出会い、国際理解教育の楽しさを感じ、積極的に授業に参加することができた。対比表づくりやグループでの参加型学習など、慣れない活動にも前向きに取り組んだ。パラグアイの同級生の話を取り上げたことも、生徒の関心を高める良いテーマとなった。		
課題	実践時間が十分に確保できず、テーマごとに深く掘り下げて考えさせられるようなアクティビティができなかった。来年度以降、一過性のものではなく、年間を通して継続できるような授業実践を考えたい。		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「パラグアイってどんな国？パラグアイと出会おう！」

この時限のねらい

- ・パラグアイと肯定的に出会い、そこに住む人々や歴史、文化を知る。
- ・パラグアイの日本のつながりを知り、パラグアイを身近に感じることができる。

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレーキング
 - ・「パラグアイ」「南米」という言葉のイメージを用紙に記入する。
 - ・ポップコーン形式にて、書いたイメージを発表しあう。
- ② パワーポイントによるパラグアイ紹介
 - ・日本からパラグアイへの経路、衣食住などの基本情報、パラグアイの日系社会のことや研修中に出会った人たちなどの紹介を行った。BGM でアルパを流し、雰囲気を感じられるようにした。
- ③ 改めて思う「パラグアイ」の印象
 - ・パワーポイントの説明を聞いて、自分が最初に抱いたパラグアイの印象と変わったこと、同じだったことなどを用紙に記入し、ペア同士で発表しあう。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 今まで「パラグアイ」という国名すらなじみがなく、さらに「南米」というと治安が悪いというイメージを持つ生徒が多かったが、日系社会とのつながりを知って好感を持つことができたり、途上国に対する偏見があったことに気づき、異文化理解の楽しさを感じているようだった。
- ◇ 自分の意見を発表することが恥ずかしい生徒が多い印象だった。「間違ったことを言いたくない」、「人に聞かれるのが嫌だ」など理由は様々だが、この授業実践を通して、どんな意見でも、自分が思ったことを素直に発表しあえる、認め合えるような生徒になってほしい。

【生徒の感想】

<第一印象>

遠い国 暑い 変わった食べ物がある 人の目が大きい 木がいっぱいあって緑が多い
 いろんな民族がいる 肌の色が日本人と違う スポーツが強い 発展途上国 動物が多い
 1年中晴天 治安が不安 みんな同じ服を着ている 村の数が多い 季節が日本と逆
 水が汚い 衛生的に不安

<パワーポイントの説明後>

日本とのつながりが深い【多数】 日本の文化が取り入れられていてすごい
 意外と栄えていた【多数】 近隣の人と仲が良い 国旗の特徴が面白い 都会な雰囲気があって
 びっくりした 楽しそうな町がある 笑顔の多い国だと思った 日本の文化と少し似ている
 思っていたより治安が良い

3 使用した教材

- <教材1> パラグアイの紹介パワーポイント
- <教材2> アルパの CD

2 時限目「パラグアイでのホームステイ体験」

この時限のねらい

- ・パラグアイの文化を疑似体験することで、パラグアイへの関心を高め、異文化理解の楽しさに気づく
- ・コミュニケーションのツールとして、言葉だけではなく、表情やジェスチャーなど、ノンバーバルの部分も大事であることに気づく。

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング
 - ・前回の授業で学んだことを思い出し、ペアで発表しあう。
- ② テレレ文化の紹介と現地語の練習
 - ・パラグアイの人々が大事にしているテレレ(マテ茶の回し飲み)の時間を知り、教師のテレレを含めたホームステイ体験の話聞く。また、パラグアイの公用語であるスペイン語とグアラニー語の挨拶などの紹介と、言葉の練習を行う。
- ③ ホームステイでテレレ体験
 - ・6人グループに分かれ、4人はパラグアイのホストファミリー(HF)役、2人は日本の留学生役に分かれる。留学生役は廊下に待機し、挨拶など言葉の練習をする。HF役はテレレの細かいルールと、お茶を勧める言葉などを学ぶ。合流してからは、ホスト役は現地語のみでテレレで留学生役をもてなし、留学生役はテレレをしながら、限られた言葉の中で、HFとのコミュニケーションを図る。
- ④ 感想をグループごとに記入する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 「異文化体験」を、外国に行かなくても体感できるような活動はできないかと考えて実践してみた。難しいと捉えられるかと思ったが、生徒はとても楽しんでた。
- ◇ マテ茶を飲んだ時、美味しいという生徒はあまり多くなかったものの、その味覚の違い自体が面白いと言う生徒が多く、自分たちと異なる文化を肯定的に受け入れているようだった。
- ◇ ホームステイ体験の時間では、スペイン語とグアラニー語しか使うことができないため、言葉が通じない、言いたいことが相手に通じない苦しさを体験することができた。もうマテ茶はいらないと断りたいのに、断る言葉が分からないため、ジェスチャーを使って表現している姿が印象的だった。

3 使用した教材

<教材3> マテ茶の茶葉、チパのお菓子、テレレ用のポットとコップ、専用のストロー
ホストファミリーの写真

3 時限目「世界の裏側の同級生の生活」

この時限のねらい

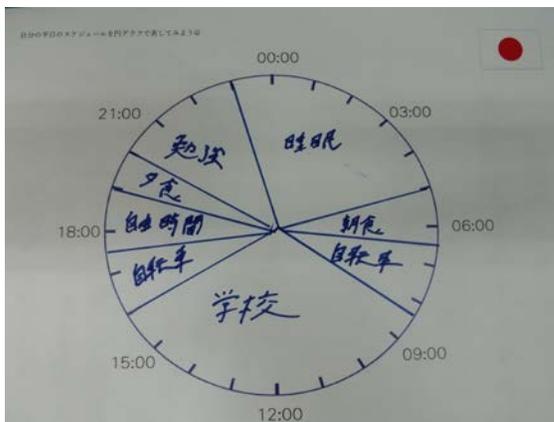
- ・パラグアイの同級生の1日の過ごし方を知る。
- ・自分とパラグアイの同級生の1日の過ごし方を比較し、同一性や違いに気づく。
- ・日本とパラグアイの比較を通して、両国の良いところと課題に気づく。

1 子どもの活動の流れ

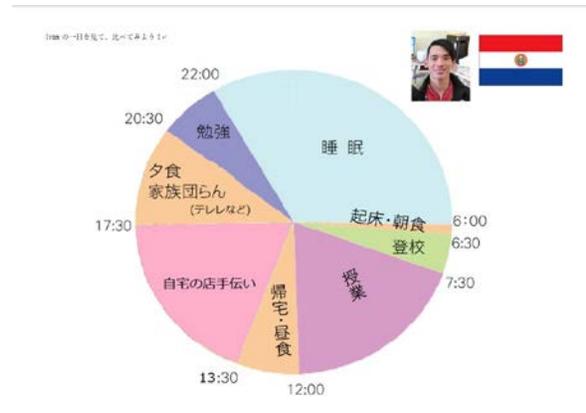
- ① 前回の復習をする。
- ② 自分の一日のスケジュールを、円グラフに記入する。
- ③ グループになり、1人のスケジュールを日本人の代表として選ぶ。
- ④ イヴァン君のスケジュールを見て、日本人と同じ／ちがうところを対比表にまとめる。
- ⑤ 作った対比表を他のグループと共有し、良いと思った意見に☆しるしをつける。
- ⑥ 対比表をもとに、「日本の良いところ・課題」、「パラグアイの良いところ・課題」を表にまとめる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 学校の時間に関して、パラグアイの学校は半日で終わることにすぐ目が行き、「うらやましい！」という生徒が多かった。しかし、その後、家族を手伝う時間が長いことに気が付き、「これだと友達と一緒にいる時間が少ないから、学校の時間が長いほうが友達と一緒にいることができるし、いいんじゃないか。」という生徒もあり、活発な議論が行われたグループもあった。
- ◇ スケジュールを書いたとき、「家族と過ごす」と書いた生徒はほとんどいなかった。スマホを使うなど、娯楽の時間に時間を多く費やしていることから、同じ年代でも時間の使い方がかなり違うことが分かった。
- ◇ 対比表の作成やギャラリー方式の共有など、参加型で行ったが、意見を出し合うことや表を作成することなど、協力して取り組むことができた。



<生徒のスケジュール>



<イヴァン君のスケジュール>

3 使用した教材

<教材4> スケジュールを書く円グラフのワークシート、イヴァン君の写真、模造紙、A4用紙、ペン

4 時限目「大切なもの」って何だろう

この時限のねらい

- ・パラグアイの同級生のアンケートから、自分たちにとって身近な人の大切さに改めて気づく。
- ・国や文化を越えて、家族を大事にする気持ちは世界共通で大切であることに気づく。

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング「最近の私の異文化体験」 および、前回の復習。
- ② 自分にとって「大切なもの」は？
 - ・「大切なもの」とその理由を、ワークシートに書き込む。その理由をペアで発表し合う。

- ③ パラグアイの同級生の「大切なもの」
- ・ドン・ボスコ高校の高校生が、自分たちと同じことを質問されたときに何を書いたのかを推測する。
 - ・6つのグループを作り、3人のアンケート結果を見て、考える。
- ④ 答えを聞く。身近な人を大切にすることについて、教師から問いかける。
- ⑤ 感想をワークシートに記入する。
- ⑥ ギャラリー方式で感想用紙を読み合い、全体で共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前回の授業から時間があいてしまっていたので、今まで学んできたことを復習するのに時間を要した。なるべく継続した時間で実践した方が良かったと感じた。
- ◇ 「大切なものは何ですか。」と、日本とパラグアイで同じ問いかけをして書いてもらったものだが、「家族」と書く割合は、日本の生徒の方が圧倒的に低かった。そのことを知った生徒は非常に驚いていた。「改めて言われると確かに大事だ。」と感じる生徒は多いが、日常から家族との時間を大事にしているパラグアイの生徒とのギャップを感じたようだった。「当たり前の大切さ」を深く感じ、毎日の過ごし方を振り返る良い機会となった。
- ◇ 1人のパラグアイ人生徒の答えで、「家族のために夢を叶える」というものがあった。「自分の身の回りの生活だけで精一杯なのに、家族のためにとって思えることがすごい！」と、クラス全員が感心していた。
- ◇ 日本とパラグアイでは、共通した課題も異なる課題もあるが、「家族を大事にする」という気持ちを持つことは、国や文化などが違っていても共通して大切なことだと気付くことができた。

【生徒の書いた「大切なもの」】

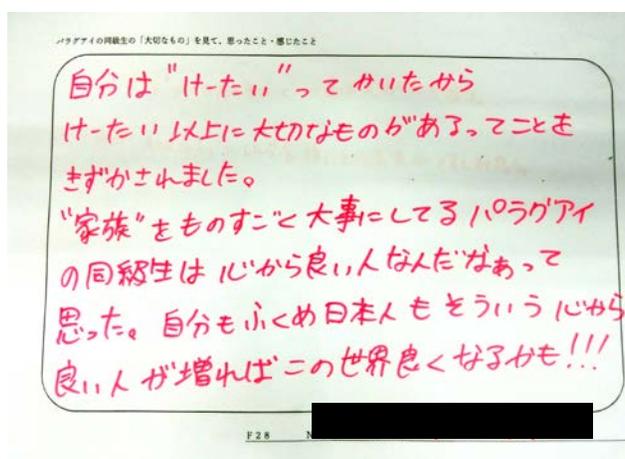
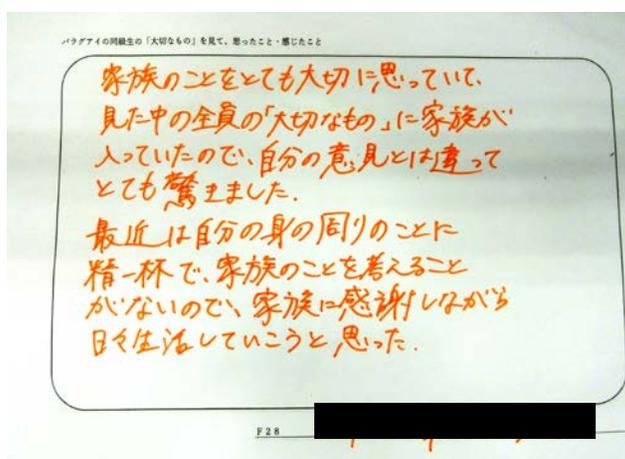
家族・・・11人

友達・・・10人

お金、命、(住居としての)家・・・3人

その他(ゲーム機、トランペット、平和、健康、時間、携帯電話 など)

【生徒の感想】



3 使用した教材

<教材5> パラグアイの高校生のアンケート用紙

4 時限目「協力隊の方々の活躍を知ろう」

この時限のねらい

- ・青年海外協力隊の方々へのインタビュー映像を見て、パラグアイの現状や課題を知る。
- ・パラグアイで活躍されている活躍されている姿を見て、自分の将来についてよく考え、行動にうつすことができるようになる。

1 子どもの活動の流れ

- ① パラグアイで活躍されている青年海外協力隊の方々へのインタビュー映像を見る。
*将来の目標や、大切にしているものは何ですか。という質問に対する回答。
 1. 渡辺真理子さん(障害児・者支援活動)
 2. 木村駿介さん(レスリング活動)
- ② 今後の進路選択をするときに、この協力隊の方たちのように、自分が何か信念をもって活動できるようにしてほしいと伝える。
- ③ 映像を見た感想などをワークシートに記入し、ペアになってシェアする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 生徒は、これから受験生となり、将来の進路選択をしなくてはならない時期に入る。青年海外協力隊として世界で活躍している2人の姿を見て、前向きに将来について考えることができた。
- ◇ インタビュー映像の中で、子供たちを薬物から守るための「夢プロジェクト」を始めたという話があった。夢を叶えた人に子供たちに向けて講演をしてもらい、夢を持つことの素晴らしさや大切さを伝えるというプロジェクトであるが、生徒たちは、最初パラグアイの薬物問題を聞いてショックを受けていたが、このような取り組みを日本人がしていることに誇りを感じ、自分たちも夢や目標に向かって努力しようという気持ちになっていた。

【生徒の感想】

- ・自分が将来やってみたいことを、協力隊の方々はやってやっていると知りました。自分も将来やってみたいことがあるので、それが叶うようにこれからも努力しようと思った。
- ・どんな形でも、人の役に立つ仕事をするのは、とても素晴らしいことだと思いました。人を笑顔にして、自分の成長にも繋がったりと、とてもいい仕事だと思いました。進路のことをもっと深く考えようと思います。
- ・言葉も分からない、生活も日本と全然違う遠いパラグアイに「人のためになりたい」と気持ちで行って、その地に行くだけでなく、その場所のためにプロジェクトを企画したり、思うことは簡単だけど、行動するのは難しいからすごいと思った。

3 使用した教材

<教材6> 青年海外協力隊の方々へのインタビュー映像

■ 全体を通して

1 授業の様子

本実践を終えてからも、生徒から「パラグアイ」という言葉や、「オラ!」「バモス!」といったフレーズが出

てくと、生徒とパラグアイを肯定的につなぐことができたと思う。また、海外情勢に興味を持つ生徒が増え、将来は大学で外国語を勉強したいという生徒が増えた。実践を通して、生徒の国際的な視野を広げることができたと感じたので、今後も継続的に国際理解教育を実践していく所存である。



<ホームステイ体験>



<対比表の共有>

	良いところ	課題
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂に入る。 ・登校がおそい。 ・学校でたくさん勉強ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族との時間
パラグアイ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が短い。 ・家族との時間が長い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お風呂 ・あそび時間 ・朝ごはんゆくり ・外灯がない。 ・放課がない。

<生徒の成果物>



<「大切なもの」は何だろう>